

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 D-1-1	
事業名 緑海地区避難道路整備事業	
事業費 全体事業費 1,170,607,471 円（国費 907,220,790 円） （測量設計費：115,149,055 円 用地補償費：351,390,564 円 工事費 704,067,852 円）	
事業期間 平成 25 年度～令和 3 年度	
事業目的 東日本大震災は本市においても沿岸部を中心に大きな津波被害をもたらした。 沿岸部に在住する市民の安心・安全を確保するためには、津波浸水域外の安全な地域まで確実に通行できる避難道路の確保は不可欠であり沿岸部から内陸側へ至る避難道路の整備は喫緊の課題となっている。 この東日本大震災での経験を踏まえ、本整備事業対象路線である「松ヶ谷 1 号線」及び「上横地・松ヶ谷線」は、海岸地域と内陸部を結ぶ幹線道路であるとともに、被害を受けた地域から避難する際の主要な避難道路であることから、山武市津波対策 100 年計画において本路線を避難道路優先整備路線と選定し、海岸地域から内陸地域を結ぶ約 3 k m 区間を避難道路として位置付け、国による復興交付金を活用し道路拡幅整備を行う。	
事業結果 全体延長 2.95 k m 車道部 8.0m 歩道部 2.5m 車道部の拡幅 災害時に地震等による家屋等の壁・塀の倒壊による道路閉塞が生じ、避難者が乗り捨てた車両、若しくは消防・救急活動に従事する車両が停車している場合でも避難車両の通行が可能となる計画車道幅員 8 m、延長 2.94 k m の整備を行った。	
着工前 	完成 



緑海小学校付近



緑海交差点付近



勝覚寺付近



県道緑海東金線付近(終点)



事業の実績に関する評価

① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

津波からの避難を確実にを行うべく、歩道整備及び車道部拡幅を中心とした整備をしたことで徒歩避難者と自動車等避難者との分離が図られたこと、また車両等が停車していても交互通行が可能な路線にしたことで、緊急時でも安全な地域まで避難できるよう整備されたことを評価する。

② コストに関する調査・分析・評価

同種の他事業と同様に一般競争入札を実施したことや、低入札価格調査を実施したことで、事業費のコスト削減に努めていると評価する。

③ 事業手法に関する調査・分析・評価

業務	想定期間（当初）	実績
調査・設計	平成 26 年 2 月～平成 27 年 2 月	平成 26 年 2 月～平成 27 年 6 月
用地買収・ 物件補償	平成 26 年 10 月～平成 28 年 3 月	平成 26 年 10 月～令和 3 年 7 月
工事	平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月	平成 27 年 4 月～令和 4 年 1 月

用地取得交渉や店舗、事業所の移転に時間を要し工事完了が、令和 3 年度の完成になった状況と分析する。

また、更なる遅延を生じさせないため、地権者の移転を待つのではなく、用地取得が整った箇所から順次工事を発注し、移転と工事を平行して進める取り組みなど、事業手法については、適正であったと評価する。

事業担当部局

建設環境部 土木課 0475-80-1182